

和歌山県立紀央館高等学校 学校運営協議会

令和 6年度 第4回【 2月 18日(火) 】

出席者：委員7名、傍聴人2名

日程

協議

- ・学校評価について
- ・学校の取組について
- ・一年間を振り返って
- ・次年度以降の要望など

本年度の総括

・学校評価について、生徒・保護者・教職員へのアンケートの結果、約8割が肯定的な評価となっている。年次団を中心に、組織的に機能している成果であると評価できる。他の項目と比較してやや評価の低かった、地域の人的・物的資源の活用について等は次年度以降に改善を図っていききたい。

・教員評価に関する回答「部活動の活性化を図るための取組がなされているか」の結果が前年度と比較して肯定的な評価が減少している。生徒数の減少で団体競技の部活動で部員数の問題が顕著である。評価が著しくないのは教員の自身への評価が厳しいことにも起因していると考えられる。今後の部活動の取組は、生徒の実情に応じた活用をしていけばよいと思われる。

・進学・就職ともに進路状況がよくなっている。今後も進路保障に努めていきたい。

・学校ホームページの活用等、情報の発信を積極的に行っていききたい。学校からの積極的な発信をもとに、保護者や地域との情報交換を密にしていきたい。

まとめ（会議で出された意見と今後の対応について）

・学校評価についてのアンケート結果が良いのは、教職員間で相談し合える組織づくりや、環境整備ができている成果であると思われる。生活指導等、一律に行いにくい課題も多いが、生徒ひとり一人に目を配り、きめ細かな配慮がなされている様子がうかがえる。

・少子化のなか、毎年入学志願者が多いのは学校が評価されている一つの評価であると言える。組織体制や設備などのハード面の充実と共に、生徒に親身に寄り添って指導・助言する学校づくりをすすめていきたい。

・SNSを使った犯罪の増加が危惧される。新聞やニュースをみない生徒が増えているので、対策を講じていきたい。

・在学中のキャリア教育と、自身の進路についての指導のさらなる充実を図っていきたい。